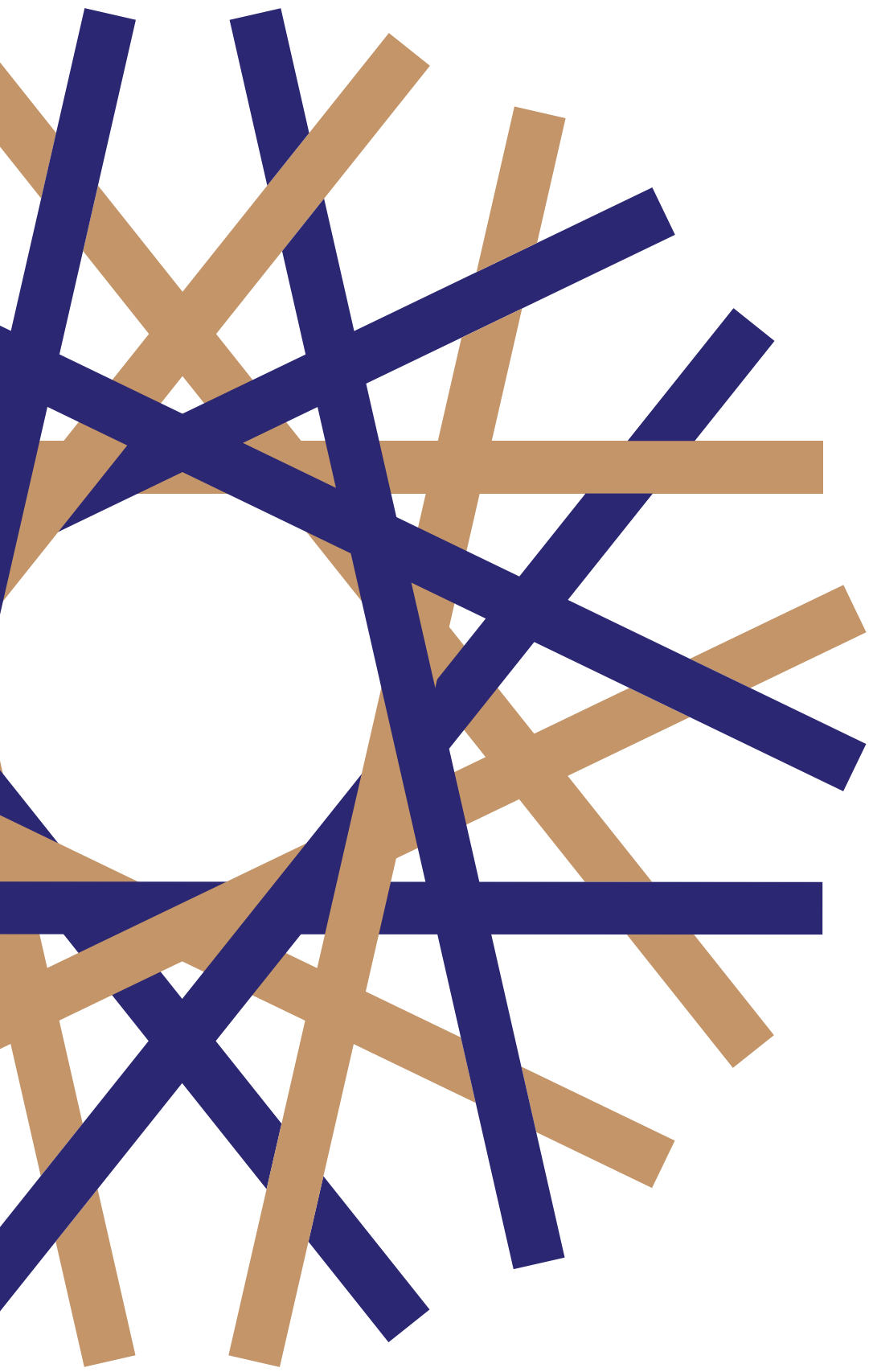


ICC TOKYO 2025

International Cybersecurity Challenge

TOKYO 2025



ICC TOKYO 2025

International Cybersecurity Challenge TOKYO 2025

日程

2025年11月11日(火)ー11月14日(金)

会場

ホテルニューオータニ幕張
千葉市美浜区ひび野2-120-3

概要

International Cybersecurity Challengeは、
26歳以下の若手人材向けの国際的なサイバー競技会です。
2022年ギリシャのアテネで初開催され、4回目となる2025年大会は、アジアで初めて日本で開催します。
大陸、地域別の8チームが世界の舞台で競います。

主催

内閣官房国家サイバー統括室及びICC日本開催準備委員会

後援

警察庁、経済産業省、千葉県、千葉市、千葉市教育委員会、千葉工業大学

出場チーム

多様な専門性を持つ15名の選手と2名のサブメンバーから構成されます

チーム名	チームロゴ	国・地域
AFRICC		ケニア、レソト、モーリタニア、モザンビーク、モロッコ、ナミビア、ナイジェリア、南アフリカ、トーゴ、タンザニア、チュニジア、ジンバブエ
TEAM ASEAN		フィリピン、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、シンガポール、タイ、ベトナム
TEAM ASIA		インド、日本、モンゴル、韓国、台湾
TEAM CANADA		カナダ
TEAM EUROPE		オーストリア、キプロス、デンマーク、フィンランド、ドイツ、イタリア、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ルーマニア、スロベニア、スペイン、スイス
LAC CYBER TEAM		アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、メキシコ、ペルー
TEAM OCEANIA		オーストラリア、ニュージーランド
US CYBER TEAM		アメリカ

(2025年10月21日現在出場国・地域)

日本の出場選手

チームアジアの一員として過去最多の6名が出場

氏名	所属	年齢	性別	出身地	ICC出場回数
佐藤 信二	豊橋技術科学大学	21歳	男	茨城県	初
甲賀 悠一郎	筑波大学	20歳	男	広島県	初
菊池 厚利	筑波大学	23歳	男	東京都	3回目
大森 章裕	Digital Experts株式会社	25歳	男	東京都	初
岩橋 涼介	筑波大学	23歳	男	千葉県	初
松葉 大和	私立武蔵高等学校	18歳	男	東京都	初

(※ACSCサイト掲載順)

What is CTF?

CTF(Capture The Flag)とは？

情報セキュリティの知識と技術を競い合うコンテスト

参加者は「フラグ（旗）」と呼ばれる、答えとなる文字列を見つけだすことを目標とし、ネットワーク解析やプログラミング、脆弱性解析技術など、幅広いサイバーセキュリティスキルを駆使して問題を攻略します。「フラグ」は、機密情報の比喻でもあり、暗号化された秘密の文字列や競技空間内のサーバー上にあるファイルのように、問題ごとに様々な形式で定義されます。

CTFは単なる技術競技にとどまらず、参加者が実践的なセキュリティスキルを身につけ、創造性と論理的思考力を鍛える貴重な学習機会でもあります。近年は、世界各国の大学や企業、カンファレンスなども盛んに開催しており、未来のサイバーセキュリティ人材の育成の場として注目されています。

競技形式

Jeopardy (ジョパディ) 形式 11/12(水)

複数のジャンルから出題される小問形式のクイズのようなもので、参加者は興味のある問題を選んで挑戦します。幅広い難易度やジャンルがあり、代表的なジャンルとしては、暗号、Webセキュリティ、リバースエンジニアリング、バイナリエクスプロイト、フォレンジックなどがあります。問題を解いて得られたフラグを回答すると、その問題の得点を獲得できます。

Attack&Defense形式 11/13(木)

Attack&Defenseは、その名のとおり攻撃と防御を同時に行うリアルタイムのチーム対戦形式です。各チームには同一の脆弱（セキュリティホールがある状態）なサーバー環境が配布され、相手のサーバーから設置されたフラグを奪う一方で、自チームの脆弱性を修正します。より多くのフラグを奪い、自分のサーバーを守ったチームが勝利します。攻撃・防御の両方を、他チームよりも素早く行うことが勝利の秘訣となるため、メンバーが最大限の力を発揮できるよう、チームとしての戦略決定やマネジメントを行うことも重要な要素となります。

ICCの特徴

世界トップレベルの若手サイバー人材による競技会

世界中の国と地域から選抜された26歳以下の優秀な若者たちが、各リージョンを代表してチームを組み、国際舞台でのしを削ります。

1日目はJeopardy形式、2日目はAttack&Defense形式で競技が行われるため、参加者には総合的なスキルセットとチームとしての連携力が問われます。また、Attack&Defense形式を採用している大会は世界的に見ても非常に少なく、ICC TOKYO 2025の大きな特色です。

問題作成・競技環境運営は日本のCTFトッププレイヤーたちが担当し、長年の経験と深い知識に基づいた、質の高い問題と公平な競技環境を提供します。

サイバーセキュリティ競技を「見える」体験へ

ICC TOKYO 2025では、「ふだんは目に見えにくいサイバーセキュリティ競技を、誰もが直感的に楽しめる体験に」という思いの下、競技の迫力や駆け引きを来場者に感じてもらうため、これまでの競技可視化手法に日本のポップカルチャーを取り入れ、さらに進化させた見える化を図ります。

テクノロジーと文化をつなぐ表現

サイバーセキュリティ競技は複雑で、背景や専門知識がなければ理解しづらいものです。そこで、競技の可視化では、ゲーム・アニメ・マンガといった日本のポップカルチャーをサイバー空間と掛け合わせた“サイバーポップ”なビジュアルアプローチを採用しました。日本のモチーフを取り入れた仮想空間を舞台に、得点や攻防の展開をキャラクターの動きや背景変化として表現することで、CTFのルールを知らない来場者でも直感的に競技の流れを楽しめるよう工夫しています。

キャラクターと仮想世界で描く競技の可視化

仮想空間を動き回るアバター／キャラクターは、中性的で親しみやすいデザインを基本とし、色だけでなく形状の違いでも識別できるようデザイン上の配慮をしています。8体のキャラクターは「かわいさ」と「かっこよさ」を併せ持ち、誰もがワクワクできるポジティブな印象を与えるようにデザインされています。



KIRIN
AFRICA



TIGER
ASEAN



DRAGON
ASIA



TANUKI
CANADA



FOX
EUROPE



SHISHI
LAC



DOG
OCEANIA



RABBIT
USA

Jeopardy

問題を解いてフラグを取得すると、仮想空間の球体ステージに色が広がっていきます。陣取りゲームのように競技の進行が視覚化されます。

Attack&Defense

各チームのサーバーを舞台に、サイバー空間での攻防をキャラクターの動きや光で表現。観客は直感的に戦況の変化を理解できます。

カンファレンス

サイバーセキュリティを学べる講座等を開催！

11/12(水)	13:30 15:30	セッション① 会場近隣中学校向け 情報セキュリティ講座 サイバー・グリッド・ジャパン 講座名 情報リテラシーカードゲーム リテらっこ プログラミング講座 千葉工業大学 講座名 「Blockly」でアルゴリズムを学ぼう！ 木更津工業高等専門学校 講座名 初めてでも大丈夫！もぐらたたきゲーム作成にチャレンジ！ 高名 典雅（筑波大学） 講座名 ジャガーノート Juggernaut 千葉大学 科学教室ワーキンググループ 講座名 Scratchでの当てゲームを作ろう 東京科学大学デジタル創作同好会traP 講座名 パスワード解析ワークショップ	招待制
	16:00 17:00	セッション② 会場近隣高等学校向け セキュリティワークショップ 東京情報大学 講座名 “マルウェア”解析体験	招待制
11/13(木)	9:15 11:15	セッション③ 会場近隣小学校向け 情報セキュリティ講座 IPA 中核人材育成プログラム 叶会 若年層啓発部会 講座名 未来のKidsサイバーセキュリティ教室 プログラミング講座 千葉工業大学 講座名 「Blockly」でアルゴリズムを学ぼう！ 木更津工業高等専門学校 講座名 初めてでも大丈夫！もぐらたたきゲーム作成にチャレンジ！ 高名 典雅（筑波大学） 講座名 ジャガーノート Juggernaut 千葉大学 科学教室ワーキンググループ 講座名 Scratchで数当てゲームを作ろう	招待制
	13:30 17:20	セッション④ 一般来場者向け 情報通信研究機構 テーマ インシデント対応演習とセキュリティイノベーター育成について （一社）セキュリティ・キャンパ協議会 テーマ 官民連携でセキュリティ人材を育むセキュリティ・キャンパの挑戦 警察庁サイバー警察局 テーマ サイバー空間の脅威の情勢と警察における取組 木更津工業高等専門学校 テーマ 木更津高専におけるサイバーセキュリティ人材育成の取組 Plaid Parliament of Pwning テーマ LLMs for Software Security: Competing with Machines (和訳)ソフトウェアセキュリティのための大規模言語モデル：機械との競争 ENISA テーマ Building Cyber Talent in Europe: ENISA's CTF Initiatives from National to International Stage (和訳)欧州のサイバー人材育成：ENISAによる国内から国際へ広がるCTFの取組 ※Plaid Parliament of Pwning 及び ENISA の講師は、オンラインで登壇(予定) ※日本語・英語で同時通訳をご利用いただけます	登録制

展示

情報処理推進機構（IPA）、情報通信研究機構（NICT）、千葉県警察本部、千葉市、千葉大学、千葉工業大学による展示（予定）

※展示期間は11月12日(水)～13日(木)

ロゴに込められた想い

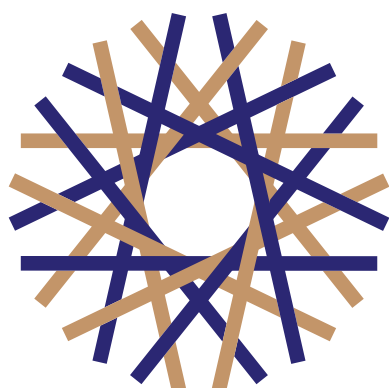
本大会のロゴは、サイバーセキュリティの知的世界と日本の伝統工芸を融合させ、「多様性」と「暮らしを支える基盤」を象徴しています。竹細工の「輪弧編み」をモチーフに、参加者の知見や文化が交差し調和する姿を表現し、しなやかで力強い竹のイメージにセキュリティの役割を重ねています。

紺色 真実・知性・信頼を意味し、深い探究心と本質を見極める力を表現しています。

金色 繁栄・持続性・成功を意味し、日本の格式ある美意識を表現しています。

二つの色は、異なる性質を持ちながら、一つの円環の中で調和し、本大会が持つ多層的な意義を映し出します。異なる個性や価値が調和し、ひとつの円環を形づくるようにこのロゴには未来へつながる共創の願いが込められています。

本ロゴは、草野剛デザイン事務所所属のグラフィックデザイナー濱田 郁（HAMADA Iku）さんによって制作されました。



International
Cybersecurity
Challenge
TOKYO 2025

大会広報

公式ホームページ等

公式HP

URL

<https://icctokyo2025.nisc.go.jp>

icctokyo2025

検索



公式X

アカウント名

International Cybersecurity Challenge TOKYO 2025

ID

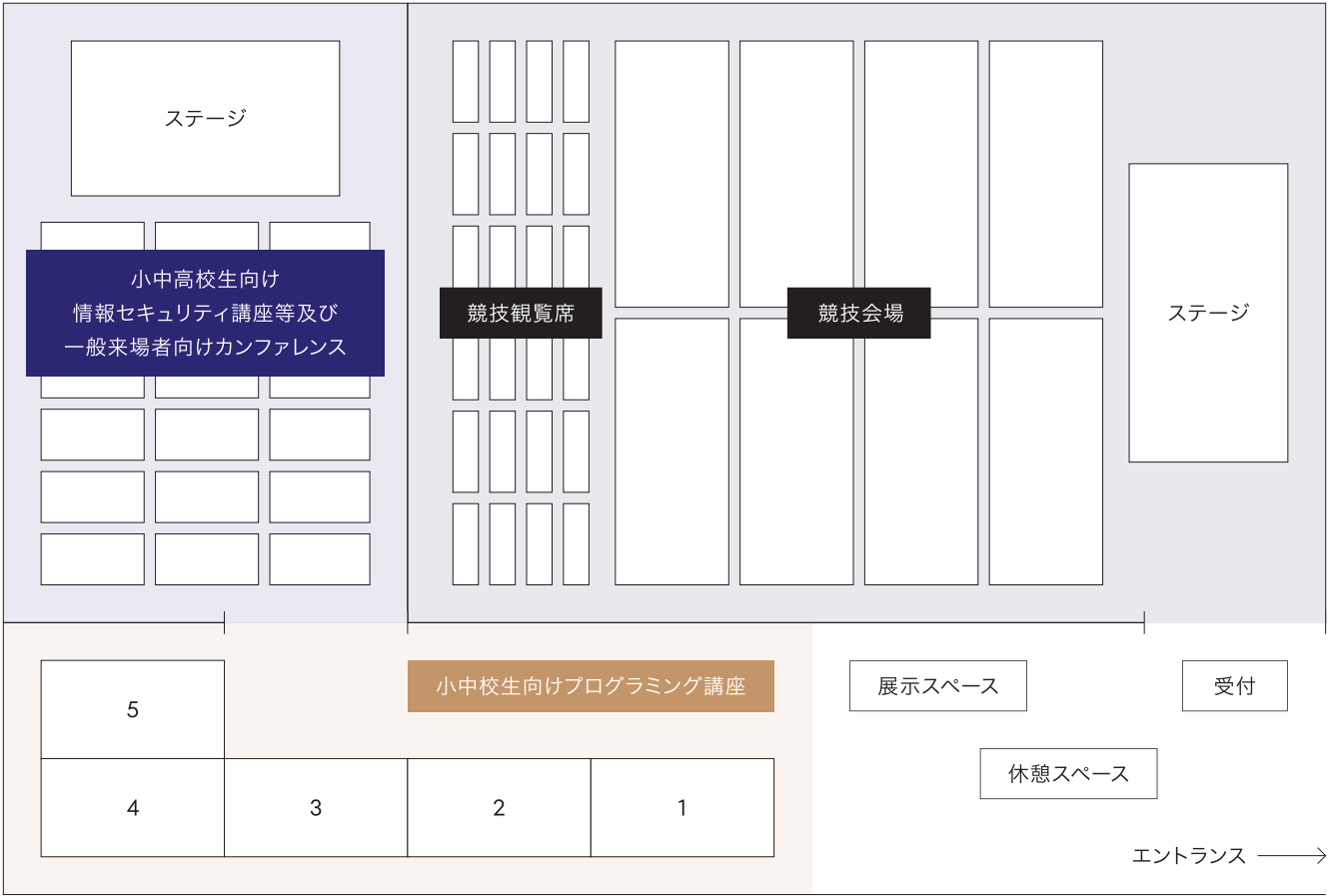
@icctokyo2025



ICC TOKYO
2025

会場案内

ホテルニューオータニ幕張 2階



※プログラミング講座のレイアウトは、講座実施時間帯における配置を示したものです。また、レイアウトは都合により一部変更となる場合があります。
※レイアウトはイメージです。

- 1 千葉工業大学 **講座名** 「Blockly」でアルゴリズムを学ぼう！ 2 木更津工業高等専門学校 **講座名** 初めてでも大丈夫！もぐらたたきゲーム作成にチャレンジ！
- 3 高名 典雅(筑波大学) **講座名** Juggernaut ジャガーノート 4 千葉大学 科学教室ワーキンググループ **講座名** Scratchでの当てゲームを作ろう、Scratchで数当てゲームを作ろう
- 5 東京科学大学デジタル創作同好会traP **講座名** パスワード解析ワークショップ

アクセス方法

最寄駅からのアクセス

東京駅	JR京葉線			海浜幕張駅	徒歩約5分
千葉駅	JR内房／外房線	蘇我駅	JR京葉線	海浜幕張駅	徒歩約5分
幕張本郷駅	京成バス			海浜幕張駅	徒歩約5分

空港からのアクセス

羽田空港	空港バス						
	タクシー						
	東京モノレール	天王洲アイランド	りんかい線	新木場駅	JR京葉線	海浜幕張駅	徒歩約5分
成田空港	空港バス						
	タクシー						
	JR成田線	千葉駅	JR内房／外房線	蘇我駅	JR京葉線	海浜幕張駅	徒歩約5分